

プレゼンテーション能力を育成するための e-ポートフォリオ活用

山住 富也*1

Email: yamazumi.tomiya@nagoya-bunri.ac.jp

*1: 名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科/図書情報センター長

◎Key Words e-ポートフォリオ, プレゼンテーション能力, Webclass

1. はじめに

名古屋文理大学稲沢キャンパスでは、2011年度より情報メディア学科の新入生に iPad を配布している。2013年度は健康栄養学科でも配布予定である。

学内はほぼ全館において認証無線 LAN が配備され、モバイル機器を利用する環境が整いつつある。

また、iPad 配布に伴い、e-Learning への関心も高まってきた。LMS を導入して授業に活用する機会が年々増えつつある。

筆者も、Webclass の e-ポートフォリオを 2 年次のゼミナールに導入している。学生同士が互いの発表をリアルタイムで評価し、振り返りながら次回の発表に生かしている。

本報告では、プレゼンテーション能力を育成するための e-ポートフォリオ活用について、具体的な事例を示す。

2. ゼミナールでの e-ポートフォリオ活用

2.1 ゼミナールの進め方

2 年次のゼミナールはネット犯罪と情報倫理をテーマとしている。犯罪の現状、具体的な事例、犯罪の防止対策などを学生が調べ、スライドを作成して報告する。教室は実習室で、ネットワークに接続されたパソコンを各自使用する。また、iPad も全員が持参している。受講者は 10 名で、毎週いくつかのテーマ（例：不正アクセス）から調査項目を選択しておき、次週に発表する。半年間で、1 人が 5 回から 10 回程度発表することになる。

2.2 プレゼンテーションの評価

e-ポートフォリオシステム (Webclass) を各自のパソコンに起動しておき、プレゼンテーションを見ながらリアルタイムで評価を入力する。評価ポイントは以下の項目で、5 段階のルーブリック評価で入力する。(図 1)。

- スライド：ポイントが明確、わかりやすいデザイン
- 図式化：図やイラストの活用
- 事例：適切なネット犯罪の実例を引用
- 説明：スライドに沿ったわかりやすい解説・態度
- 総合：発表全体の創業評価

また、自由記述のコメントも同時に記入する。教師評価として、教員も同じ評価を残す。他の学生からは自分に対する評価を見ることができないように設定し

ている。



図 1. ルーブリック評価と自由記述

評価の総合的なバランスは、レーダーチャートで確認することができる。(図 2)

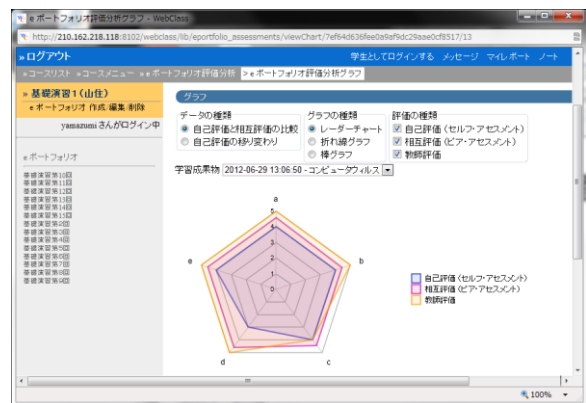


図 2. 評価結果のレーダーチャート

3. e-ポートフォリオの使用結果 s

3.1 評価・コメントについて

プレゼンテーションの育成に e-ポートフォリオの活用が有効であったか調べるため、半年の授業を終えた後にいくつかのアンケートを行った。

まず、e-ポートフォリオに入力された自分に対する評価について、発表の参考に使っているかを訪ねた。

- ・評価の結果を見たか。(図 3)
- ・自分に対してのコメントは役に立ったか。(図 4)

図 3 から、「必ず/ときどき評価・コメントを見た」という回答が 90%を占め、自分への評価を気にしてい

る様子がうかがえる。

図4からコメントが役に立つと感じた学生が大半を占めることがわかる。特に教師評価は学生が次のスライド作成や発表の参考に行っていると考えられる。

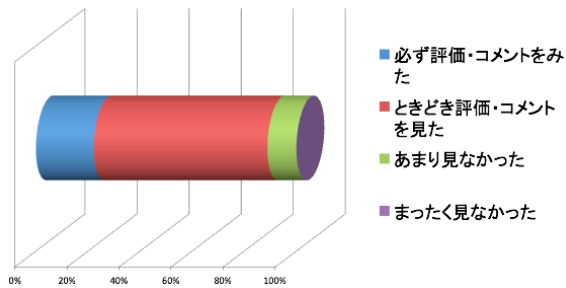


図3. 評価・コメントを見たか

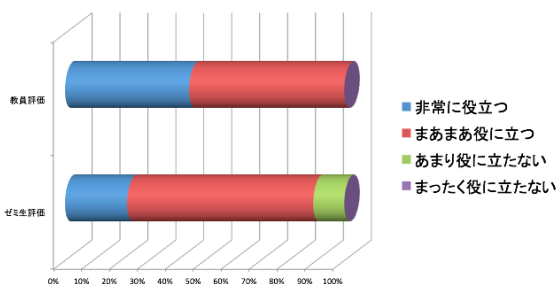


図4. コメントが役に立ったか

また、学生同士でお互いの評価をすることについて、どのように感じたかを訪ねたところ、「自分の良いところや悪いところを比較できる」、「評価するための視点で発表を見るので集中できる」という回答が多く見られた。「あまり意味はない」、「評価すること自体が難しい」という回答はなかった。(図5)

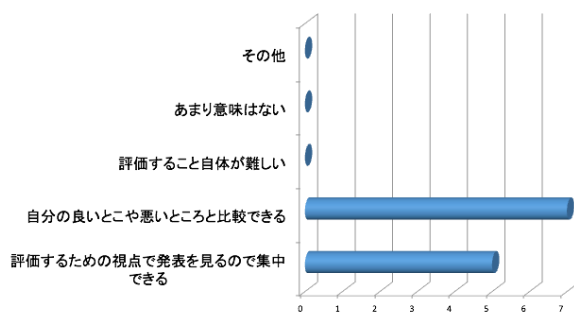


図5. お互いに評価することについてどう感じたか

コメントで参考になったことを具体的に訪ねると以下のような回答が見られた。

- ・文字が多い（読みにくいスライドになる）
- ・イラストの重要性（直感的に訴えかけるイメージ）
- ・不安だと思っていたところが評価されていて自信につながった。
- ・「自分の言葉で話したらいいと思う」というコメントが参考になった。

3.2 プレゼンテーション能力の上達について

e-ポートフォリオを活用して互いの発表をを相互評

価した結果、プレゼンテーションが上達したかの自己評価について尋ねた。(図5)

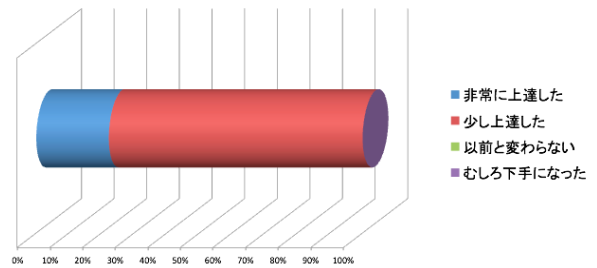


図5. プレゼンテーションの上達について(自己評価)

「非常に上達した」という回答が20%程度で、残りは「少し上達した」と回答した。「以前と変わらない」、「むしろ下手になった」という回答はなかった。

上達した具体的理由として以下の回答があった。

- ・スライドの作り方の根本が学べたから
- ・教師評価やゼミ生による評価を参考にしていたから
- ・先生の説明が明確だったから
- ・アニメーションを使うようになってからかなり上達した
- ・もとができなさすぎたから

最後に、ゼミナールのテーマである情報倫理についての理解度を示す。(図6)

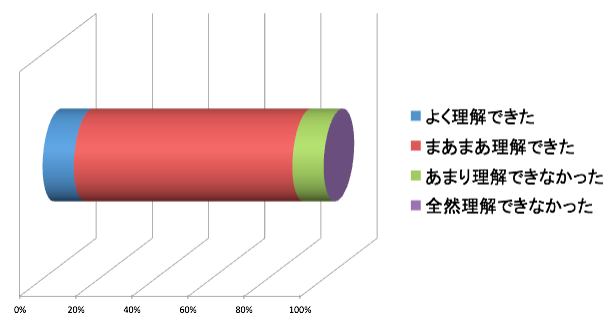


図6. 情報倫理についての理解(自己評価)

4. まとめ

ゼミナールでe-ポートフォリオを活用して、プレゼンテーション能力育成を試みた。他者からのリアルタイム評価に刺激されながら、自分との違いを見つけ参考にし、結果としてプレゼンテーションが上達したと感じている学生が多く見られた。また、評価するという視点で他者のプレゼンテーションを見ることで、授業態度に集中力が見られた。

今後は、他のテーマにおいてもこのような形式の授業を試みたい。

5. 謝辞

本研究は日本データパシフィック社のASPサーバおよびWebclass(e-ポートフォリオコンテンツ)を利用して行われた。ここに感謝の意を表する。